平成20年4月20日　　第　9　号

市川を調べる

編　集　市川を調べる会（会長 星一郎・委員長 木村隆一）
発　行　八戸市立市川公民館（ 館長　氣 田　武 男 ）

市川大でべそ構想

市川を調べる会会長　星　一郎

市川地域新年祝賀会の開催は公民館協力会から地域連合町内会（松林司郎会長）に引き継がれ、参加者も大幅に増加した。これは「一つの市川」が息吹き始めた証と捉え、間を置かず二の矢「拠点＝臍つくり」を進めなければならないと思っている。

臍は体の真ん中にあり、市川のそれは「**陸奥市川駅**」でありたい。昭和十九年に「**轟木信号所**」から**駅に昇格**して軍隊・進駐軍と共に歩み、かつては**百名以上の国鉄職員**が**働いていた**歴史的に見ても価値のある駅であるが、現在は無人駅であり、**冬季はトイレ禁止の駅**なのである。

この駅付近を鳥瞰すると、ここは正に交通の要所である。東北新幹線・JR・八戸自動車道東北自動車道へ接続する百石自動車道・県道市道等の大動脈があり、この人・車の流れを取り込まない手はない。

隣の下田駅は国鉄用地を買い受け、お祭り広場と無料駐車場で活性化を図ったのに対し、我が陸奥市川駅は、「**北の玄関として北八戸駅に改名し、立派な施設が整備**」されるだろうと確信していたが、駅前は民間分譲。この差はなんであるのか知りたい。二十五万都市から弾き出された「出べそ」なのかもしれない。

幸いなことに、駅裏は今なら間に合う未開発地。土地の先行取得で国道と有機的に結び、いつの日にか「広大な多目的駅前広場・憩う道の駅・我らの多目的文化施設」等により「**夢の大でべそ」を実現したい。**

その第一歩は、現駅にまともなトイレを作ることから始まる。松林司郎会長を中心に**みんなでトイレ作戦を進めよう**。会でも歴史的検証を踏まえながらこの「出べそ・陸奥市川駅」に光をあてて行きたいと思っている。

「和野」地区の名前の由来

新和　鈴　木　國　男

〈1〉和野という地名　由来の調査は、当地区の名家**鈴木市助**氏の家系から入っていきました。氏の先祖は、推定ではありますが江戸前期から中期のあたりに現在の上北町内にある**上野**地区から轟木町内の名家**鈴木與兵衛**氏の所に奉公人として仕えたのが始まりだろうと言われております。その後、與兵衛氏から〈カマド〉として分家したそうです。

〈2〉上野を「ワノ」　当時、市助氏は上野〈ワノ〉の○○と名乗っていましたが、後に〈ワノ〉和野として現在の地名ができたと思われます。ちなみに、「**上北町史**」の中にも上野地区は**ウワノ**の**ウを省い**て〈**ワノ**〉と呼ばれていると記されています。町内の人達に会って話をしましたが、〈ワノ〉と言っていました。また、岩手日報社発行の「**岩手の語源・方言辞典**」によりますと、「上野」と書いて「和野」と呼んでいる地区が、各所にあると書かれています。

〈3〉 和野の市助氏　鈴木市助氏の菩提寺は五戸町の**専念寺**です。ここで過去帳を拝見しましたら、最も古いものでは、初代市助氏の母親が亡くなられた享保17年（西暦1732年）、今から約276年前の記録が残っていました。また、「和野」という地名の記録が残っている資料である「**青森県史南部1・盛岡藩領**」に依れば、「**享和3年（西暦1803年）、和野6戸有り**」と記載されています。今から205年前のことになります。

〈4〉和野町内　和野町内は平成18年に隣接する新田町内と合併して「**新和町内**」となりましたが、今後ますます旧町内の先祖・先輩の「明るい先進性の気概」の歴史を受け継ぎ、明日に向かって行きたいと思っています。